

平成 30 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	① 生徒の興味・関心を高める教育課程や組織的な授業改善に取り組む。 ② 学校行事・生徒会活動・国際教育を充実させ、国際的視野、自主性と高い人権意識を身に付けさせる。	① 授業改善に組織的に取り組み、学力の向上を図る。 ② 授業や各種行事等を通して、伝統文化の学習や情報発信の機会を増やし、国際感覚と人権意識の向上を図る。	① 基礎学力の定着と考える力の育成を図るため、主体的で対話的な活動を中心とする授業改善を推進する。 ② 日常の授業や学校行事等で、自国の文化理解と国際理解に関する意見交換や発表の機会を確保し、情報発信ができるよう指導する。	① 生徒による授業評価で「授業内容がだいたい理解できる」「話し合う機会や意見を発表する機会がある」について「あてはまる」と答えた生徒が前年度より1割以上増えたか。 ② 国際理解アンケートで「自国の文化を発信できる」生徒の割合が1割以上増えたか。
2	生徒指 導・支援	① 部活動を通して、コミュニケーション力や自己マネジメント力を養う。 ② 命の大切さを理解させ人権意識を高める。	① 安全への配慮を踏まえ、活動の活性化を目指した計画的で効率的な指導体制を確立する。 ② 教育相談体制をさらに充実させるなど、きめ細かな生徒支援を推進する。	① 部活動の目標と年間指導計画を策定し、安全に配慮しながら効率的な活動を行うように指導する。 ② 個々の生徒の様子に目を配り、面談を充実させるとともに職員会議等で生徒の情報を共有する。	① 部活動アンケートで「練習内容や量、頻度等が自分にあっている」と回答した生徒が1割以上増えたか。 ② 担任が生徒との個別面談を年度当初に1回、年度途中で1回の計2回以上実施し、きめ細かな生徒支援を推進できたか。
3	進路指 導・支援	① 生徒が積極的に進路を考え、個に応じた進路の実現ができるよう進路指導の充実を図る。 ② 様々な体験活動を通して、働くことの意味や社会との関わりについて考える機会を提供する。	① 生徒自身の適性や関心を生かした進路実現に向けて、蓄積されたデータを活用し、入学時より継続的な支援を行う。	① 生徒の進路実現に向けて、進路に関する総合的な学習の時間の活用、進路ガイダンス、模擬テストのデータ分析、担任による進路面談、教科担当や進路指導担当による教科指導や個別相談等を、積極的に実施する。	① 個の学力の育成とともに、校内外の試験の学習到達度で一定水準に達した生徒の割合が、各学年において前回の調査より増えたか。
4	地域等と の協働	地域との協働を推進し、地域に根差した信頼される学校づくりを図る。	地域やPTA等との連携した行事や取組の充実を図る。	学校運営協議会の地域連携部会を活用するなど、地域の諸団体との連携を密にし、地域の行事等への生徒の参加機会を増やす。また、生徒とPTAが連携した行事を行う。	地域と連携した行事への参加生徒数が昨年より2割以上増えたか。
5	学校管理 学校運営	① 信頼される学校づくりのために体制の改善、充実を図る。 ② 事故不祥事防止、円滑な学校業務運営、生徒の学習環境改善に努める。	② 組織的に事故不祥事防止に取り組む。	② 事故防止会議の活動に加えて、各グループや学年ごとの事故防止研修会を開催する。	② 事故防止啓発資料で正しい知識を持っている職員の割合が前年度より1割以上増えたか。